





裏面

20 御木本幸吉

《瑞鳳扇》 一面

昭和三年（一九二八）

真珠、綴錦、金

総高（台共）六〇・五 扇巾三〇・七

昭和の大札に際して三重県より献上された長柄の団扇。金の縁に真珠を連ね、表と裏にそれぞれ瑞雲に鳳凰を表した綴錦を張り、鳳凰の文様の上にも大小の真珠を留め付けており、その総数は千六百以上に及ぶ。長柄や上部の桐文には細やかな彫金が施されている。同県鳥羽町で真珠の養殖を世界で初めて完成させ、真珠王と呼ばれた御木本幸吉（一八五八〜一九五四）が製作を担当した。御木本が半円真珠の養殖に初めて成功したのは明治二十六年（一八九三）のことで、明治四十年の東京勸業博覧会には、真珠で飾られた軍配扇を製作して出品、この後、真珠を用いて表した五重塔の置物などを万国博覧会に出品して話題を呼んだ。また、宝飾の細工場を設置してその技術を高めるとともに、デザイン研究を深め、大正期以降、それまでヨーロッパ製の宝飾品を用いていた女性皇族方のティアラなどの装身具を手がけるようになり、現在のミキモトの礎を築いた。なお、本作の綴錦は染織家の山鹿清華、朱塗りの鳥居形の台は塗師の岩村哲斎といずれも京都の作家による。鳥居形の台は、三重県が伊勢神宮の御在地にちなんでのことである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan